

若葉町まちづくりワークショップ 報告書



第九中学校圏域

令和4年（2022年）8月

立川市

目 次

1. ワークショップの目的・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. ワークショップの実施概要・・・・・・・・・・・・	2
3. 各回ワークショップの概要・・・・・・・・・・・・	3
・全8回プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・	3
・第1回ワークショップ・・・・・・・・・・・・	5
・第2回ワークショップ・・・・・・・・・・・・	9
・第3回ワークショップ・・・・・・・・・・・・	13
・第4回ワークショップ・・・・・・・・・・・・	17
・第5回ワークショップ・・・・・・・・・・・・	21
・第6回ワークショップ・・・・・・・・・・・・	25
・第7回ワークショップ・・・・・・・・・・・・	29
・第8回ワークショップ（ポスターセッション）	33
4. 第8回ワークショップ アンケート結果	43

1. ワークショップの目的

ワークショップ開催の目的

本市の公共施設や都市インフラの大部分は、昭和 40 年～50 年代にかけ集中的に整備されてきたため、その多くは老朽化が進み、今後 10～30 年後をめどに建替えや更新の時期を迎えます。今後、少子高齢化・人口減少が進行し、厳しい財政状況が予測されるなか、市は将来世代へ施設（機能）を引き継ぐためのルール等を定めた「公共施設再編個別計画（平成 31 年 1 月）」を策定しました。

その中で前期検討対象圏域のひとつである第九中学校圏域（若葉町）は、「学校統合や清掃工場の移転等、公共施設を取り巻く環境から大きな変化が見込まれる圏域。人口減少期を既に迎えており、今後も緩やかに継続することが見込まれ、土地面積も狭いことから、生産緑地の宅地化や老朽化団地の建替え等による人口構成の変化を踏まえ、再編だけでなく、まちづくりという大きな視点での検討が必要となる。」とされています。

そこで、地域住民や施設利用者みなさんと若葉町の将来のまちづくりについて考え、地域にある公共施設や公共空間、民間施設等の再編について考えるワークショップを企画、開催しました。

市は今後の若葉町のまちづくりの方向性について、令和 5 年度を目途に「若葉町まちづくり方針」としてとりまとめることとしていますが、その際、本ワークショップを通じて把握した意見やニーズ等も参考とします。

※『再編』＝複合化、減築、民間施設の活用などにより、効率的・経済的に施設の使い方（機能）を見直すこと

ワークショップの目標

まちのキャッチフレーズ（昨今のまちの変化や地域住民の生活実感に基づくまちの将来像）とこだわりポイント（まちづくりにおいて欠かせない視点）、それを踏まえた機能再編や、土地利用や跡地活用等を生かすインフラの方向性などについての具体的なアイデアを、班ごとにとりまとめていくことを目標としました。また、その成果をポスターにし、発表することとしました。

ワークショップとは？

参加者のみなさんで話し合いをする「市民検討」のひとつの方法です。

「市の計画の説明会」や「住民、利用者の要望を出す場」ではなく、参加者同士が話し合いをし、より良い案を出す場です。

2. ワークショップの実施概要

本ワークショップは、讃岐亮先生（東京都立大学助教）のアドバイスのもと、全8回開催しました。

途中、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言等が度々発出されたため、その間に予定していたワークショップは、適宜、延期して開催しました。

申込者は10代～80代の39人（一般公募26人、団体推薦13人）で、全員を参加者としてしました。

参加者をA～Fの6班に分け、班ごとにワークを進め、全体に向けて発表し、共有する形式としてしました。ワークを円滑に進めるため、各班には、ファシリテーター1人と、市の若手職員を1人配置しました。

	開催日時	開催場所	参加人数
第1回	2020年12月19日（土） 13：30～16：00	若葉会館 集会室	35人
第2回	2021年4月3日（土） 13：30～16：00	若葉会館 集会室	29人
第3回	2021年10月2日（土） 13：30～16：00	旧若葉小学校 体育館	33人
第4回	2021年12月11日（土） 13：30～16：00	旧若葉小学校 体育館	26人
第5回	2022年3月26日（土） 13：30～16：00	旧若葉小学校 体育館	22人
第6回	2022年4月23日（土） 13：30～16：00	若葉台小学校 アリーナ	27人
第7回	2022年5月14日（土） 13：30～16：00	旧若葉小学校 体育館	26人
第8回	2022年6月25日（土） 13：30～16：00	旧若葉小学校 体育館	41人※

※第8回はワークショップ参加者27人＋一般観覧者14人

3. 各回ワークショップの概要

若葉町まちづくり ワークショップ 全8回プログラム

《テーマ》

第1回 若葉町 まちの今を知ろう ～みんなでやってみよう～

《目標》 若葉町についての現在の基本的な情報を参加者で共有します。

《プログラム》

- ワークショップの概要
- みんなでやってみよう
～アイスブレイクで仲間づくり～
- まちの今を知る
～まちの現状・共有しよう～

グループワーク
A～F班

《テーマ》

第2回 わがまち若葉町を語ろう ～むかしといま～

《目標》 若葉町の昔と今のようすをグループで語り合い、まちのキーワードを見つけます。

《プログラム》

- まちづくりについての説明
- 若葉町とわたし
～若葉町とわたしの紹介～
- 若葉町を語ろう
～まちの今と昔を語ろう～

グループワーク
A～F班

《テーマ》

第3回 将来をイメージしよう ～これからのまちの姿～

《目標》 若葉町がどんなまちになってほしいか、将来像をイメージして『まちのキャッチフレーズ』を出します。

《プログラム》

- 若葉町の将来の姿をイメージしよう
～まちの魅力アップと解決策について考えよう～
～どんなまちにしたいか考えよう～

グループワーク
A～F班

- まちのキャッチフレーズを考えよう！
～まちのキャッチフレーズを考えよう「〇〇なまち」～

「キャッチフレーズ」
は機能再編案
(将来計画図)に反映

※話題の場所を見学しよう（希望者のみ）～みんなで旧若葉小学校校舎の見学～

《テーマ》

第4回 身近にある施設を知ろう ～施設の使い方の棚おろし～

《目標》 町内の施設利用や環境について日々感じていることを参加者全員で語り合います。

《プログラム》

- 公共施設の現状についての説明
- 若葉町の施設の何を何でも話そう
- 施設の機能（役割）分けをしよう

グループワーク
ワ・カ・バ・チ・ヨ・ウ班

※ちょこっとひとことコーナー（若葉町で行っている活動などについての発表！）

1回～3回：主に「まちの将来像と方針」についての議論とまとめ

4回～7回：主に「まちの機能再編（まちづくりの具体的アイデア）」についての議論とまとめ

第5回 《テーマ》
まちに必要な機能ってなんだろう ～ 機能の視点で考える ～

《目標》 今ある施設やまち全体の機能を整理し、
将来まちに求める機能について話し合います。

《プログラム》

○若葉町の施設について考えよう

グループワーク
ワ・カ・パ・チ・ヨ・ウ班

○こだわりポイントを考えよう

グループワーク
A～F班

～これから求めたい活動や、
重視したい機能について話し合います～
～こだわりポイントについて話し合います～
～実現するために工夫できる点を考えます～

※ちょこっとひとことコーナー

第6回 《テーマ》
まちの機能再編にチャレンジ！ ～ 将来像から考えよう ～

《目標》 将来像と照らし合わせながら、
地図上に機能再編のアイデアを示してみます。

《プログラム》

○これまでのワークをふりかえろう

グループワーク
A～F班

○若葉町の将来計画図を描こう！

※ちょこっとひとことコーナー

第7回 《テーマ》
将来計画図の見える化！ ～ みんなでポスターをつくろう～

《目標》 まちの将来像～機能再編までワークショップで話し合った内容を
ポスターに表現します。

《プログラム》

○若葉町の将来計画図をポスターにしよう！

グループワーク
A～F班

※ちょこっとひとことコーナー

第8回 《テーマ》
ポスターセッション ～ まちのみんなに伝えよう～

《目標》 ポスターの内容をプレゼンテーションして、様々な考えを共有します。

《プログラム》

○ポスターセッション

全員

○最後のまとめ

計画に反映

★会の最後に「今日の成果発表」「先生からのコメント」を毎回行います。

第1回ワークショップ

テーマ：若葉町 まちの今を知ろう ～みんなでやってみよう～

ワークショップ初回であるため、参加者が打ち解けられるような自己紹介を行いました。後半は、若葉町の現状を知ってもらうことを目的としました。

■ワークショップの概要

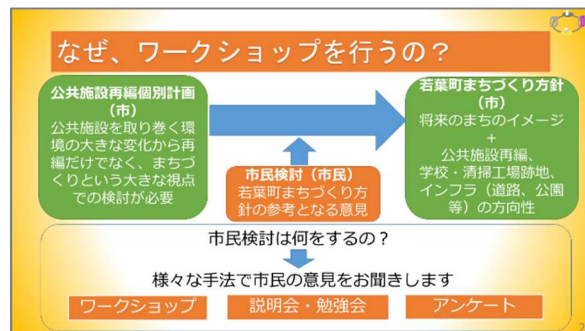
市から、「なぜワークショップを行うのか？」や「ワークショップの目的や成果」などについて説明を行いました。

【ワークショップの目的】

- ・地域住民、施設利用者が議論を積み上げた様々な意見を、市がしっかりと把握する
- ・今後、市が若葉町まちづくり方針を検討する際に参考となる建設的な意見の収集

【ワークショップの成果】

ワークを通じて検討した「将来のまちのイメージ」や「こだわりポイント」は市が若葉町まちづくり方針を策定する際に生かします。



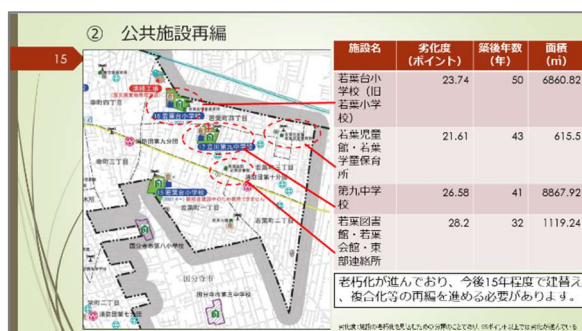
■ステップ1 みんなでやってみよう ～アイスブレイクで仲間づくり～

A～F の6つの班ごとに、ワークの体験と自己紹介を兼ねたアイスブレイクを行いました。（アイスブレイクとは、初対面の人同士が出会う時、その緊張をときほぐすための手法です）

- ・各自、自己紹介シートに記入する
- ・1枚の若葉町のマップに、メンバー全員が、自分の住まいの場所、好きなことに関連した場所にシールを貼る
- ・一人ずつ、班のメンバーに紹介する

■ステップ2 まちの今を知る

若葉町の現状を知ってもらうため、市から、市や若葉町を取り巻く状況について、人口、公共施設再編、清掃工場移転、小学校の統合、都市計画の観点から説明を行いました。



その後、市の説明を踏まえ、興味をもったこと、日頃感じていることについて、意見をふせんに書き出し、シートに貼りました。

最後に、どのような意見が出たか、班ごとに全体に向けて発表しました。

第1回 若葉町 まちの今を知ろう～みんなでやってみよう～

はじめ

ワークショップの目的や今後の流れなどについて、市より説明を行いました。



くワークショップって何をするの？>

参加者のみなさんで話し合いをする「市民検討」のひとつの方法です。「市の計画の説明会」や「住民、利用者の要望を出す場」ではなく、「参加者同士が話し合いをし、より良い案を出す場」です。

今回のワークショップでは、全8回の検討を行い、将来のまちのイメージや、公共施設再編、跡地活用のこだわりポイントなどを班ごとにまとめ、発表します。なお、提案された将来のまちのイメージやこだわりポイントは、市が令和4年度を目途に策定を予定している「若葉町まちづくり方針」の参考とします。

ステップ1 みんなでやってみよう

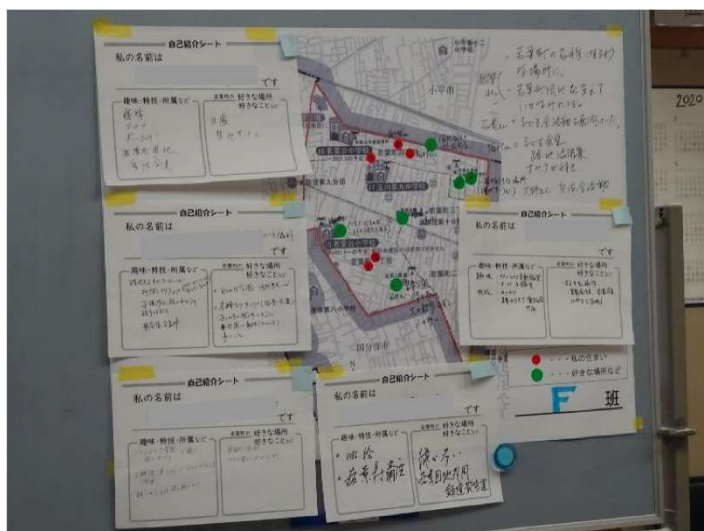
～アイスブレイクで仲間づくり～

参加者のみなさんは、これから若葉町の将来について考えていく仲間です。お互いを知り、楽しく話し合いを進めるために、6つの班に分かれ、班ごとに自己紹介のワークを行いました。

若葉町のマップに、自分の住まいの場所と、若葉町で好きな場所、好きなことに関連した場所にシールを貼りました。そして、グループのメンバーにそれぞれの場所を紹介しました。

各班にはファシリテーターに加え、市の若手職員も1人ずつ入り、一緒にワークを行いました。

グループワーク



若葉町

好きな場所、好きなこと

- ・けやきモール
- ・若葉会館、若葉図書館
- ・若葉公園
- ・緑が多く、良好な環境
- ・団地の並木
- ・富士山が見える
- ・人とのつながりが得やすい



など

(参加者の自己紹介シートより抜粋)

ステップ2 まちの今を知る

～まちの現状～

立川市 総合政策部行政経営課 渡貫 泰央 課長

人口、公共施設再編、清掃工場移転、小学校の統合、都市計画の5つの要素から見た、若葉町の今の状況について、市より説明を行いました。

- ・立川市の公共施設は老朽化が進み、人口、財政の状況から全ての施設を維持していくことは極めて困難です。2053年までに、床面積20%（約312億円）削減を目標として取り組んでいます。
- ・学校統合や清掃工場の移転等、公共施設を取り巻く環境に大きな変化が見込まれます。
- ・他の圏域と同様に「再編」を進める必要がありますが、確定している跡地等について検討する必要があります。
- ・都市計画道路の整備や生産緑地、団地、公園の状況により、人や物の流れが変化していく可能性があります。



～共有しよう～

グループワーク

市から説明のあった以下の5つの要素について、参加者のみなさんが興味を持ったこと、日頃感じていることについて意見を出し合いました。

（以下、参加者の意見の一部抜粋）

① 人口

- ・若い人が少なく、お年寄りが多い
- ・まだ人口を増やす取り組みはできるはずである

② 公共施設再編

- ・多世代の人たちが集える場所が欲しい
- ・ハコものから空間への発想の転換

③ 清掃工場移転

- ・跡地は住民本意の視点での活用を望む
- ・移転後は市民の憩いの場にしたい

④ 小学校の統合

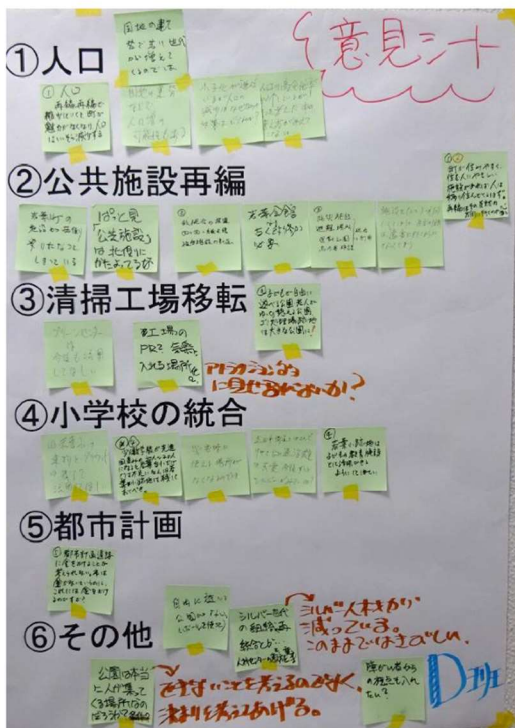
- ・廃校を利用した美術館など
- ・子どもの行動範囲が広がった（良くも悪くも）

⑤ 都市計画

- ・道路が狭い、混んでいる
- ・まち全体のバリアフリー化

⑥ その他

- ・くるりんバスを再開して欲しい
- ・人が集まる理由は？魅力的なまちとは何だろう？



6つの班でそれぞれどのような意見が出たか、全体に向けて発表をしました。

まとめ

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

「公共施設」の解釈が変わってきています。建物だけではなく、公園などのオープンスペースや道路なども公共施設です。また、そこで行われることやサービス、人間関係も公共空間として捉えることができます。「まちづくり」について考えるとき、建物ではなく、そこで「できるコト」をイメージしてみてください。

ステップ2のワークでは、空き家の活用や道路（交通）、バリアフリー、健康づくりと、多世代の人の様々な意見、考えを共有することができました。



ワークショップに参加したきっかけ（アンケートより一部抜粋）

- ・若葉町の未来に関して興味、要望を持っていたため。
- ・若葉小の跡地利用について関心があったため。
- ・若葉町が住みやすい町になっていくために、考えていきたいから。孫が大きくなっていくのに大切なことから。
- ・多くの町民の意見を反映してほしいと思ったから。
- ・まちづくりに参加できるよい機会だと思った。
- ・これから若葉町をより良いまちにしたいと思っているので。

第1回ワークショップの成果物と資料

【成果物】

- ・自己紹介シート+若葉町マップ
- ・意見シート

【配布資料】

- ・全8回プログラム
- ・第1回ワークショップ次第
- ・ワークショップの概要
- ・まちの今を知る
- ・アンケート

※宿題：「若葉町のむかしの様子がわかるもの」(写真など)を
次回のワークショップに持ってくる

第2回ワークショップ

テーマ：わがまち若葉町を語ろう ～むかしといま～

まちの将来を考えるにあたり、様々な角度から若葉町を見つめ直すため、時間軸で考えるワークを行いました。第2回は過去と現在について意見を出しました。

■まちづくりについての説明

【まちづくりを考えるポイント】

自分がまちとどう関われるか「じぶんごと」として考えることが大切であるということについて、東京都立大学の讃岐先生から説明がありました。



【若葉町のまちづくりについて】

若葉町の都市計画、都市計画道路、生産緑地、その他都市施設などについて立川市まちづくり部都市計画課の白坂課長より説明を行いました。



■ステップ1 若葉町とわたし ～若葉町とわたしの紹介～

- ・各自、自己紹介シート(その2)に記入する
- ・昭和10年頃の若葉町の地図に、メンバー全員が、自分の住まいのある場所にシールを貼る
- ・一人ずつ、班のメンバーに若葉町在年数や転入時に若葉町を選んだ決め手(すなわち魅力)などを紹介する
- ・昔の若葉町の様子が分かる資料を持参した参加者は、見せながらその説明もする

※在住年数が短い参加者も、班メンバーの話を聞くことで昔の若葉町を知ることができました。

自己紹介シート その2	
私の名前は	持参した資料(年代)など
若葉町在住	若葉町を選んだ決め手は
年です	です

■ステップ2 若葉町を語ろう ～まちの今と昔を語ろう～

若葉町の「今の良いところ・足りないところ」「昔のよかったところ・足りなかったところ」について、意見を出し合い、良いところはピンクのふせん、足りないところは青のふせんに書きました。今・昔シートのまちづくりの5つの視点に貼り分けることで、まちの魅力や課題、班のメンバーの関心の高い分野などが見えてきました。最後に、全体に向けて発表しました。

第2回 わがまち若葉町を語ろう ～むかしといま～

はじめ

第2回はまちの昔と今についてのプログラムです。今後、まちの将来を考えていくにあたり、様々な角度から若葉町を見つめ直すため、時間軸で考えるワークを行いました。

はじめに、アドバイザーの讃岐先生と立川市より、「まちづくり」について説明を行いました。

<まちづくりを考えるポイント>

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

市民や訪れる人ひとりひとりが「じぶんごと」として考えることが大切です。自分はまちとどう関われるか考えてみるのが「じぶんごと」につながります。自分や他の人が魅力と思っているところや、行政が計画で描いている未来のイメージを共有して将来のビジョンを描きましょう。

<若葉町のまちづくりについて>

立川市まちづくり部都市計画課 白坂 浩二 課長

立川市都市計画マスタープランでは、「都市機能集積を生かした持続可能なまちづくり」「人々が集まり交流する魅力あるまちづくり」「住み慣れた地域で安全で安心な生活を送ることのできるまちづくり」の3つを目標としています。若葉町においては、武蔵野の面影を残す豊かな緑を保全しながら、うるおいある住宅地の形成を図り、町の面積の1割強を占める生産緑地の保全や、都市計画道路の整備推進などに取り組んでいます。

ステップ1 若葉町とわたし

～若葉町とわたしの紹介～

グループワーク

第1回と同じメンバー構成で、6つの班に分かれてワークを行いました。

若葉町の昔（昭和10年）の地図上に、現在の自分の住まいの場所をシールで示しました。自分が住んでいる場所は、昔、どのようなところだったでしょう？

また、若葉町の在住年数、若葉町を選んだ決め手、持参していただいた「若葉町の昔が分かる資料」について紹介しました。

各班にはファシリテーターに加え、市の若手職員も1人ずつ入り、一緒にワークを行いました。



若葉町を

転入する時、選んだ決め手

- ・住環境の良さ
- ・子育てしやすい
- ・緑が多い
- ・団地が当たったから
- ・交通の便が良かったから
- ・立川市の中でも閑静な土地だから
- ・生まれた町だから

など

（参加者の自己紹介シートより抜粋）



ステップ2 若葉町を語ろう

～まちの今と昔を語ろう～

若葉町の「今の良いところ・足りないところ」、「昔（今現在より過去のこと）の良かったところ・足りなかったところ」について、班ごとに意見を出し合いました。良いところはピンクのふせん、足りないところは青のふせんに書き出しました。

そして、それらの意見を『自然・みどり』『交通・道路』『施設・拠点』『生活・暮らし』『安全・安心』『その他』の6項目に振り分け、今・昔のシートに貼りました。

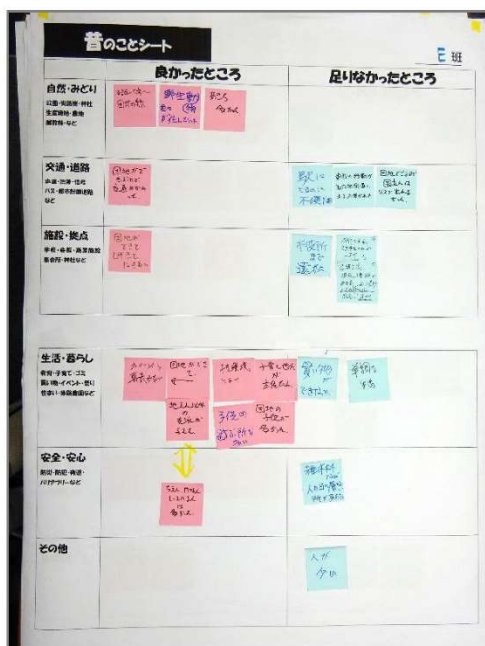
グループワーク



今のこと

(以下、参加者の意見の一部抜粋)

	良いところ	足りないところ
自然・みどり	・緑が多い ・古くからの木 ・団地の緑・市民農園	・広い公園がない ・サッカー、野球などできる場所がない
交通・道路	・バスの本数が多い ・信号ができた	・五日市街道の渋滞 ・歩道が狭い
施設・拠点	・若葉会館、図書館 ・スーパーが多い ・けやきモール	・交流の場が少ない ・公民館的な施設がない ・商店街が寂しい
生活・暮らし	・買い物が便利 ・お祭りが3つもある ・農園がある	・自治会が活発でない ・交流、つながりが少ない ・文化施設が少ない
安全・安心	・交番がある ・治安が良い、夜静か	・夜間人通りが少ない ・広域避難場所が遠い
その他	・富士山が見える	・町の中心となる魅力なし



昔のこと

	良かったところ	足りなかったところ
自然・みどり	・緑・畑が多かった ・生きものがいた ・空き地があった	・けやきや緑が減った
交通・道路	・くるりんバスがあった ・渋滞が少なかった	・駅に出るのが不便だった
施設・拠点	・商店街が賑やか ・駄菓子屋があった ・団地ができて賑わった	・コンビニ、スーパー、おしゃれなカフェがなかった ・会館(公民館)なかった
生活・暮らし	・学校行事が多かった ・近所付き合いがあった ・子育てしやすい	・買い物ができない
安全・安心	・火の用心が回っていた ・知らない大人にも怒られた	・雑木林など人の目の届かない所が多かった
その他	・子供が多かった	

ステップ2 若葉町を語ろう

～成果発表～

6つの班でそれぞれどのような意見が出たか、全体に向けて発表をし、讃岐先生から講評していただきました。班ごとに様々な特色ある意見が出ていました。



まとめ

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

ステップ2のワークでは、お祭りや人と人とのつながりなど、ソフト面を挙げている班が多く見られました。お店の名称や、場所の名前など、地域の資産・資源に関する具体的なイメージが共有できたことも印象的でした。

次回は将来の話になります。どんなまちになって欲しいか、自分はまちとどのような関わりができるか、考えてみてください。



第2回ワークショップの成果物と資料

【成果物】

- ・自己紹介シート+昭和10年頃の若葉町の地図
- ・今のことシート
- ・昔のことシート

【配布資料】

- ・第2回ワークショップ次第
- ・ニュースレターvol.1
- ・前回の成果(意見シート全班分)
- ・まちづくりを考えるポイント
- ・アンケート

【テーブル資料】

- ・若葉町周辺 航空写真(昭和22年、昭和54年、平成31年)
- ・若葉町周辺 写真(昭和31年～昭和61年)

第3回ワークショップ

テーマ：将来をイメージしよう ～これからのまちの姿～

若葉町の魅力や課題を踏まえ、将来の若葉町をこんなまちにしたい！という方針やキャッチフレーズについて話し合いました。

■まちづくりの進め方とビジョン

まちづくりはどのように進めるのか、まちのビジョン(=未来像)とは何か、について、讃岐先生から説明がありました。

また、まちづくり活動の事例として、市民組織(NGO)が主体となってつくられた遊び場の紹介もありました。



■ステップ1 若葉町の将来の姿をイメージしよう

～まちの魅力アップと解決策について考えよう～

第2回で出された「今と昔の良いところ・足りないところ」をもとに、まちをより良くするための案を出しました。

- ・良いところはより良く、足りないところはどのように改善できるか考え、黄色いふせん
に書き、魅力アップ・解決策シートに貼る
- ・その中からキーワードを抜き出し、緑のふせんに書き、貼る

～どんなまちにしたいか考えよう～

キーワード(緑のふせん)をもとに、まちづくりの5つの視点『自然・みどり』『交通・道路』『施設・拠点』『生活・暮らし』『安全・安心』および『その他』から、まちの基本方針について話し合いました。魅力や解決策から考えることによって、将来像を具体的にイメージしやすくなりました。

■ステップ2 まちのキャッチフレーズを考えよう！

方針が実現した将来のまちをイメージしてキャッチフレーズを作ります

キャッチフレーズを作る際には、以下のポイントを意識してみてください。

1. まちの良さや特徴が表されているか
2. 概ね20年後に実現したいことが表されているか
3. 将来にとってより重要な点が表されているか
4. 具体的な言葉で見た人にイメージを想起させるものになっているか

今までのワークで浮かび上がったキーワードを組み合わせ、こんなまちにしたい！というまちの将来像をイメージし、班ごとにキャッチフレーズを考えました。

このキャッチフレーズをもとに、今後
も検討を進めます。

最後に、各班の基本方針とキャッチフレーズを、全体に向けて発表しました。
また、ワークショップ後に、希望者で旧若葉小学校の校舎見学を行いました。

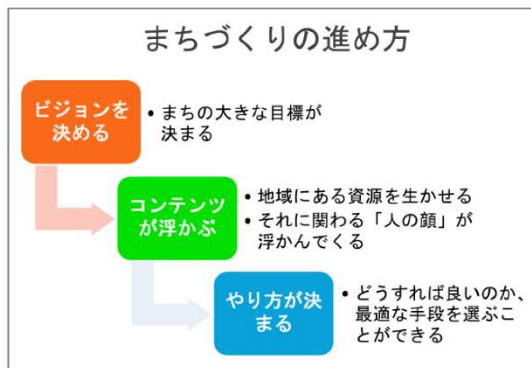
第3回 将来をイメージしよう ～これからのまちの姿～

はじめに

第3回はいよいよ、まちの将来について考えるプログラムです。今までのワークショップで出された若葉町の魅力や課題を踏まえ、将来の若葉町をこんなまちにしたい！という方針やキャッチフレーズについて、班ごとに話し合いました。

<まちづくりの進め方とビジョン>

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生



まちのビジョン(=未来像)とは、未来のまちの姿がどうなるか、それをわかりやすく示すものです。

まちづくりは左の図のような順に進めます。本日のワークでは、「ビジョンを決める」ところを考えます。ビジョンを決めることはまちの大きな目標を決めることになります。まちのコンテンツ(資産)をにらみながら進めるとよいでしょう。

ステップ1 若葉町の将来の姿をイメージしよう

～まちの魅力アップと解決策について考えよう～

前回のワークショップで出された「今と昔の良いところ・足りないところ」をもとに、どうすればまちがより良くなるかを考えました。

一人一人が若葉町の「魅力アップ・解決策」を黄色のふせんに書き出し、シートに貼りました。また、そこからキーワードを抜き出し、緑のふせんを貼りました。

グループワーク



若葉町を

～どんなまちにしたいか考えよう～



キーワード(緑のふせん)からまちづくりの5つの視点『自然・みどり』『交通・道路』『施設・拠点』『生活・暮らし』『安全・安心』それぞれについて、こんなまちにしたい、という、まちの基本方針について話し合いました。



こんなまちにしたい(方針)シート A班	
まちづくりの5つの視点	基本方針
自然 みどり	豊かな自然をいかして 四季折々の 感じられる街
交通 道路	小さな子どもから高齢者の人も 安心して歩けるまち
施設 拠点	多世代が交流して一緒に 学べるコミュニティ作り
生活 暮らし	思い思いに遊んだりボールが打てる公園 だれもが、ハッピーで楽しめるお祭り ある街
安全 安心	みんなが見守り、子どもが安心して あそべる

ステップ2 まちのキャッチフレーズを考えよう！

ステップ1でイメージした将来の若葉町について、概ね20年後の実現を意識して班ごとにキャッチフレーズをつくりました。

今までの検討で浮かび上がったキーワードを組み合わせ、「若葉町らしさ」を盛り込んだフレーズを考えました。

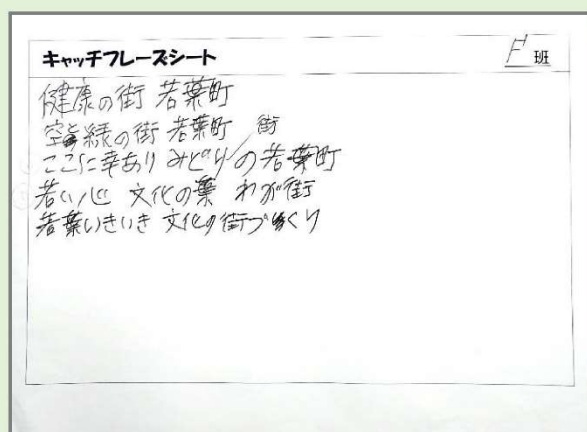
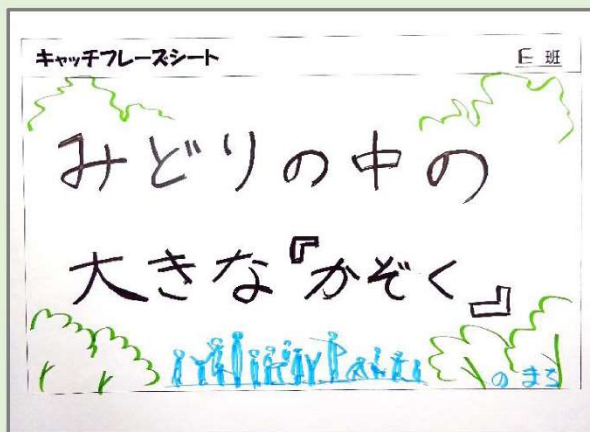
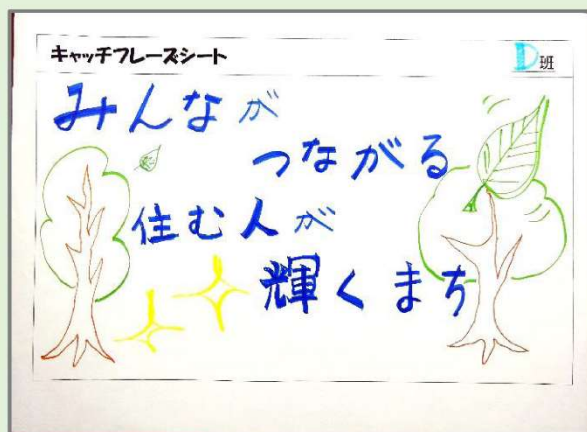
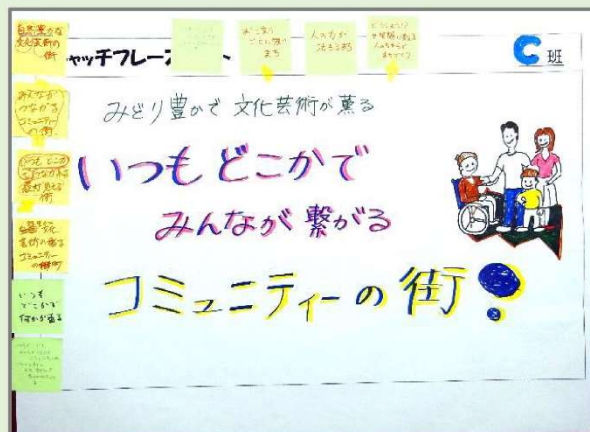
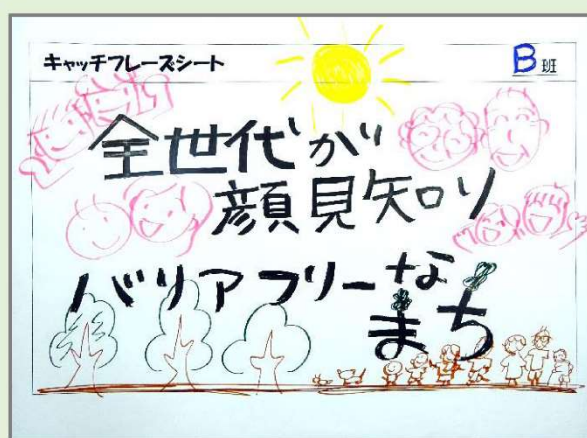
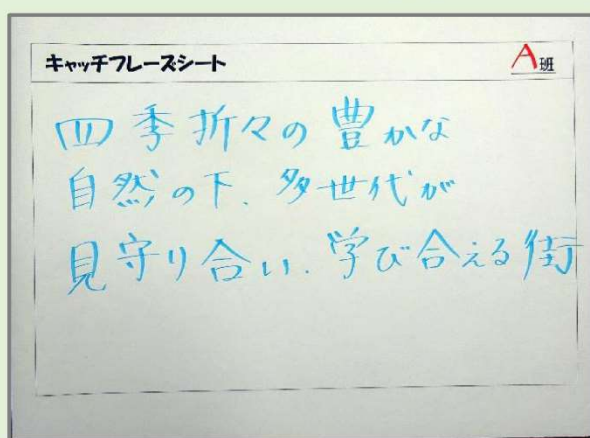
そして、シートにキャッチフレーズを書き、色を付けたり絵を描いたり、自由に表現しました。

班ごとにこだわりのあるキャッチフレーズとなりました。

グループワーク



・・・・・・・・・・各班のキャッチフレーズシート・・・・・・・・・・



※発表後、F 班の合意により一部変更があります

成果発表

6班それぞれ、まちの基本方針とキャッチフレーズについて全体に向けて発表をしました。讃岐先生からの講評では、多世代がつながることを盛り込んでいる班が多いのが印象的であること、どうしたら多世代がつながることができるか考えていく必要があることなどのお話がありました。

なお、キャッチフレーズについては、今後実施するアンケートやサウンディング型市場調査の際に、設問や対話の条件として取り入れていきます。



まとめ

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

活発な議論ができたことを嬉しく思います。

本日は、各班でキャッチフレーズを考えるとこまでできました。今後、このキャッチフレーズを実現するために自分だったらどんなことができるか？ということを考えてみてください。

～旧若葉小学校 校舎見学～

ワークショップ終了後、希望者（8名程度）で旧若葉小学校の校舎見学を行いました。

屋上からは若葉町を見渡すことができ、まちに緑が多く、地域の大事な資産のひとつであることを実感できました。

第3回ワークショップの成果物と資料

【成果物】

- ・魅力アップ・解決策シート
- ・基本方針シート
- ・キャッチフレーズシート

【配布資料】

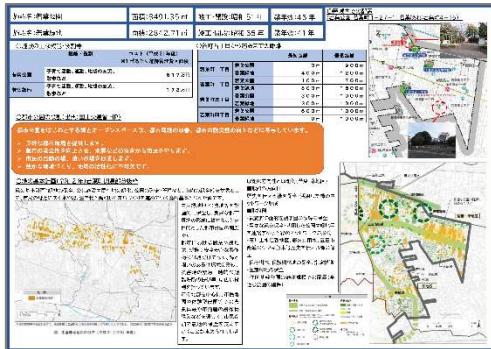
- ・第3回ワークショップ次第
- ・ニュースレターvol.2
- ・前回の成果
(若葉町での在住年数・若葉町を選んだ決め手 まとめ、
今のこと・昔のことシート全班分)
- ・将来のまちの姿をイメージ「〇〇なまち」の実現に向けて
- ・まちづくりの思考の進め方と“ビジョン”について
- ・アンケート

第4回ワークショップ

テーマ：身近にある施設を知ろう ～施設の使い方の棚おろし～

施設再編を考えるために、まず、若葉町内に今ある施設について考えます。参加者からの「様々な人と話したい」という意見に応え、第4、5回は、第1～3回とは異なるワカバチヨウの6つの班を組み、新たなメンバーで取り組みました。

■公共施設の現状についての説明



公共施設を取り巻く状況や、再編について、市から改めて説明を行いました。また、若葉町内の施設の稼働状況や運営コストについての資料を提示しました。

讃岐先生からは、施設再編を考える時のポイントについての説明がありました。

■ステップ1 若葉町の施設のことを何でも話そう

各施設の「使い方」「良いところ」「見直したいところ」について意見を出しました。同じ町内に住んでいても、存在や使い方を知らなかったという意見もあり、新しい発見がありました。

※班ごとに6つの全テーブルを順に回るとい形式をとることで、すべての施設に対しての意見を共有できるようにしました。

施設の使い方を考える(ステップ1成果イメージ)								
使い方		良いところ		見直したいところ				
合唱サークル	体操教室	まちの真ん中にある	コミュニティの拠点	駐車場がせまい	蔵書数が少ない	若葉図書館 若葉会館 東部連絡所		
子ども読書会に参加	英会話教室	広い和室が使いやすい	子どもが入りやすい図書館	本の状態が悪い	若い人が利用しない			
住民票を取得	自治会の定例会議	町会会議にちょうどいい広さ	貸室が無料で使える	維持費が高い	夜間の稼働率が低い			

■ステップ2 施設の機能(役割)分けをしよう

ステップ1で書き出した「施設の使い方」の黄色いふせんを、8つの機能別に分類するワークを行いました。現状、若葉町がどのような機能をどれだけ有しているかを洗い出し、把握することが目的です。

最後に、施設の機能分けの結果について、全体に向けて発表しました。

また、第4回から、「ちょこっとひとことコーナー」と題し、希望者に地域での活動などについてお話していただく時間を設けました。第4回は、4名の希望者にお話していただきました。

施設の使い方を考える(ステップ2成果イメージ)									
機能	学校教育	学習	文化	集会・交流	子育て	福祉	運動	行政	その他
若葉図書館・若葉会館・東部連絡所		公民館・図書室 公民館	公民館 公民館	公民館 公民館	公民館 公民館	公民館 公民館	公民館 公民館	公民館 公民館	公民館 公民館

施設ごとに出てきた使い方をファシリテーターと若手職員を中心に、公共施設の有する学校教育から行政の8つの機能とその他に分類します。複数の機能がまたがってもOKです。

第4回 身近にある施設を知ろう ～施設の使い方の棚おろし～

はじめに

第4回は、若葉町内の施設の現状について考えます。参加者が町内の施設をどのように使っているかを共有することで、今後の使い方の見直し、施設再編を考える第一歩となります。

参加者から今までの班以外のメンバーと話してみたいという意見もあり、今回と次回第5回は、第1～3回までとは異なる班を組み、新たなメンバーでワークを行います。

ワークにあたっては、若葉町在住の方に公共施設の利用状況等についてお聞きした「※若葉町まちづくりに関するアンケート」も活用しながら進めます。

※市ホームページ：<https://www.city.tachikawa.lg.jp/gyoseikeiei/koukyousisetu/wakabaenquete.html>

（「若葉町まちづくりに関するアンケート」で検索していただくと検索結果に表示されます。）

<鳥の目線と市民の目線>

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

地域の中で施設再編を考える時の大事なポイント「鳥の目線を持つこと、市民の目線を持つこと」

施設の再構築・再編成を考える時には、鳥になって空から若葉町を見下ろすように、地域を俯瞰的に見ることが大事です。もう一つ大事なことは、利用者・市民の目線で、まさに皆さんの視点です。実際の施設や場所でもどのような活動があるのか、どのくらいの利用頻度なのか、どれだけコストが投じられているのかなど、つぶさに見る必要があります。

今回のワークではまず、この市民目線で、市から提供された情報なども参考にしながら、公共施設や公共的な場、空間の利用実態などを確認し、使い方の棚おろし（現状把握）をしましょう。

ステップ1 若葉町の施設のことを何でも話そう

若葉町の

～各施設の使い方・良いところ・見直したいところ～

グループワーク



ワ カ バ チ ヨ ウの6班に分かれてワークを行いました。それぞれの施設について所在地や面積、稼働率、維持管理コストなどの基本情報を共有したうえで、「使い方」「良いところ」「見直したいところ」の意見を出しました。

班ごとに6つの全テーブルを順番に回る形式をとることで、すべての施設に対して意見が出せると同時に、施設の情報や、他の班の人の意見も共有できる仕組みです。

- ワ: 若葉会館・若葉図書館・東部連絡所
- カ: 若葉児童館・若葉学童保育所
- バ: 第九中学校・旧若葉小学校・若葉台小学校
- チ: グリーンセンター(清掃工場内)
- ヨ: 若葉公園・若葉緑地
- ウ: その他

(ワ～ヨ以外に、参加者が使っている公共的な役割を持った施設・場所について)



ステップ2 施設の機能（役割）分けをしよう

立川市では公共施設が保有する機能を以下の8つに分類しています。公共施設の再編にあたっては、施設（ハード）をどう再編するかではなく、「機能を考える再編」を進めています。



「立川市公共施設再編計画」より

～各施設の機能分け～

グループワーク

各班それぞれ、ステップ1で参加者全員が出した「施設の使い方」の黄色いふせんを、8つの機能別に分けて貼りました。現状、若葉町にどのような機能がどれくらいあるのかを洗い出します。



機能シート【若葉図書館・若葉会館・東部連絡所】⑦				機能シート【若葉図書館・若葉会館・東部連絡所】⑦				
学校教育	学習	文化	集会・交流	子育て	福祉	運動	行政	その他
	学習会 若葉会館 生涯学習 (体操、コース、講座) ピアノ使用、スクリーン利用	映画会 カラオケ等の活動	子どもが小さい時 PTA 子ども会 での会話	子育てサークル 保育所の 親での 話し合い	健康フェア 会館まつり 文化会行事	エクササイズ	証明書 発行 税金 支払い	議員の活動報告 気晴らし (図書館の特集コーナーをよくみる)
	英語サークル 子供達が 夏休みに 利用	歌う会を利用 音響施設	月2回カラオケ教室 で利用している すごい	よみきかせ	地域の ケア会議		シルバーパス 発行手続き	議員の活動報告 気晴らし (図書館の特集コーナーをよくみる)
	若葉図書館 SPACEを拡張 蔵書量増やす 一つのジャンル 充実	若葉図書館 SPACEを拡張 蔵書量増やす 一つのジャンル 充実	各種サークル 活動で利用	各団体 総会	若子連 WJLC の 会議			
	本の貸し出し		自治連の 会議を毎月 使っています					

学校教育	学 習	文 化	集会・交流	子育て	福 祉	運 動	行 政	その他
	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習会 ◇若葉会館 生涯学習(体操、コース、講座)、ピアノ使用、スクリーン利用 ◇英語サークル ◇子供達が夏休みに利用 ◇夏の暑さを涼みながら本を読む ◇本の貸し出し ◇若葉図書館 SPACE 拡張蔵書量増やす一つのジャンル充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◇映画会 ◇カラオケ等の活動 ◇歌う会を利用音響施設 ◇月2回カラオケ教室で利用しているすごい ◇各種サークル活動で利用 	<ul style="list-style-type: none"> ◇子どもが小さい時 PTA ◇子ども会での会話 ◇子供から老人まで使える ◇子どもが小さい時、障がい児の集会 ◇各団体総会 ◇若子連 WJLC の会議 ◇自治連の会議を毎月使っています 	<ul style="list-style-type: none"> ◇子育てサークル ◇保育所の親での同士の話し合い ◇よみきかせ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇健康フェア ◇会館まつり ◇文化会行事 ◇地域のケア会議 	<ul style="list-style-type: none"> ◇エクササイズ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇証明書発行 ◇税金支払い ◇シルバーパス発行手続き 	<ul style="list-style-type: none"> ◇議員の活動報告 ◇気晴らし (図書館の特集コーナーをよくみる)

成果発表

班ごとに、施設の機能分けの結果について、全体に向けて発表しました。

施設の存在やその使われ方など、「初めて知った」という声もあり、地域の資産の情報共有ができたのは有意義でした。また、ウ班では公共施設以外の施設や場所についてワークを行いました。その機能は「集会・交流」が多く、交流を深めたり、にぎわいを創出する場は公共施設以外にもたくさんあることが分かりました。



まとめ

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

前回までとは異なるメンバーでの班構成、かつ席の移動もありましたが、むしろそれを生かして皆さんが活発に議論していただけたことが良かったと思います。

本日の大きな成果は、市民目線で施設の使い方の情報共有ができたことです。多くの方が知らなかったという使い方の発見もありました。次回もその「機能に着目する目線」を持って議論に参加していただけたらと思います。

～ちょこっと ひとことコーナー～

ワークショップの最後に、参加者同士の情報共有を目的として、地域での活動や地域との関わり方などについて、4名の希望者の方にひとことお話をいただきました。次回以降も数名ずつお話していただく予定です。

第4回ワークショップの成果物と資料

【成果物】

- ・施設現況シート
- ・機能シート

【配布資料】

- ・第4回ワークショップ次第
- ・ニュースレターvol.3
- ・前回の成果(基本方針、キャッチフレーズ全班分)
- ・身近にある施設を知ろう ～施設の使い方の棚おろし～
- ・若葉町の施設情報
- ・若葉町まちづくりに関するアンケート(令和3年 11/11 速報値)
- ・アンケート

第5回ワークショップ

テーマ：まちに必要な機能ってなんだろう ～機能の視点で考える～

前半は、第4回ワークショップの続きとし、若葉町内に今ある施設について評価の視点で分類しました。後半は、これからの若葉町に必要な機能について意見を出し、班ごとに機能再編のためのこだわりポイントを考えました。

■評価の視点についての説明

公共施設を評価する視点について、讃岐先生から説明がありました。評価の視点は、機能再編を考える際にも必要であり、そのバランスも重要です。

■ステップ1 若葉町の施設について考えよう

第4回ワークショップで出した若葉町内の各施設の「良いところ」「見直したいところ」の意見を、**お金・利便性・広さ**の3つの評価の視点で分類しました。評価の視点を持つと、機能再編を考える際に工夫できる点が見えてきます。

分類した結果を、全体に向けて発表しました。

評価の視点⇒工夫できる点と考えます	
機能再編にあたっては①複数の視点を持ち、②それぞれに偏りが無いようにすることが重要です。その中で、工夫できる点を洗い出すことがこだわりポイントに繋がります。	
評価の視点	機能再編を考えるにあたっての市のこだわりポイント (公共施設あり方方針の内容)
広さ (量、規模など)	【公共施設のスリム化と機能(役割)重視の再編・転換】 面積を削減しても機能は維持することで人口減少・少子高齢化、施設老朽化、厳しい財政状況へ対応する。(面積:削減目標達成20%)
利便性 (アクセス、使い勝手など)	【地域の核となる公共施設へのさらなる展開】 再編後の施設が地域活性化と世代間交流を生み出す公共施設にする。
お金 (使用料、建設・改修・維持管理費など)	【効率的な公共施設の運営】 効率的な公共施設の運営により維持管理にかかる負担を減らし、建物の更新に使う財源を増やす。

■ステップ2 こだわりポイントを考えよう

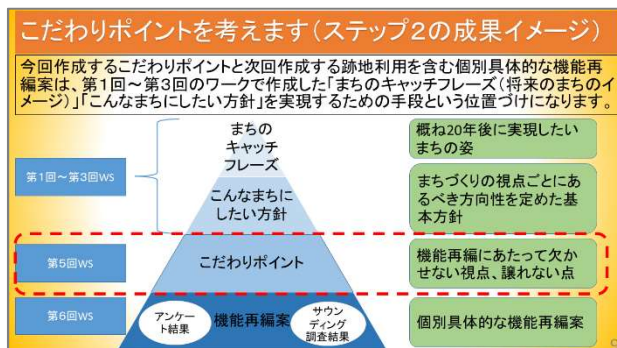
～将来の若葉町で行いたい！続けたい！大切な！活動・機能について～

まちに求める活動や場、機能を明らかにすることを目的として、将来の若葉町で行いたいこと、続けていきたいこと、大切にしたいと思うことを書き出し、機能ごとに分類しました。そしてその結果から、班として優先したい機能を選びました。

～こだわりポイントと工夫できる点を考えよう～

班ごとに考えたキャッチフレーズや基本方針の実現に向け、機能再編にあたっての「こだわりポイント」や「工夫できる点」について話し合いました。今まで検討してきたことを踏まえて考えます。

最後に、各班のこだわりポイントを、全体に向けて発表しました。



また、「ちょこっとひとことコーナー」では2名の希望者にお話していただきました。

第5回 まちに必要な機能ってなんだろう ～機能の視点で考える～

はじめに

前半は第4回の続きで、若葉町内の施設の現状について考えるワークを行います。後半は将来の若葉町に必要な機能（役割）について意見を出し合い、優先順位を付けた中で、班ごとに機能再編のためのこだわりポイントを考えます。

<3つの評価の視点>

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

公共施設を評価する視点として、以下の3つがあります。

- ・ **お金**（使用料、建設・改修・維持管理費など）
 - ・ **利便性**（アクセス、使い勝手など）
 - ・ **広さ**（量、規模など）
- } サービス

今回のワークでは、この3つの視点を持って、町内にある公共施設や公共的な場、空間について評価してみましょう。今後、機能再編を考える際にも必要な視点となります。

ステップ1 若葉町の施設について考えよう

～各施設の良いところ・見直したいところを

グループワーク

若葉町の

3つの視点で分類しよう～

第4回と同じ、ワカバチヨウの6班に分かれてワークを行いました。第4回ワークショップで出した若葉町内の施設の「良いところ」「見直したいところ」の意見を、お金・利便性・広さの3つの評価の視点で分類しました。評価の視点を持つことにより、機能再編案を考える際に工夫できる点が見えてきます。



成果発表

班ごとに、ステップ1の成果を、全体に向けて発表しました。どの班でも、良いところ・見直したいところはどちらも、アクセスや使い勝手など利便性に関する意見、すなわちサービスの内容に関する意見が多くありました。また、費用を抑えられている一方、使い方に不便が生じているなど、相反する意見もあることが分かりました。



ステップ2 こだわりポイントを考えよう

～将来の若葉町で

グループワーク

行いたい！続けたい！大切な！活動・機能について～

第1回～3回の班に戻りワークを行いました。このワークでは、まちに求める活動や場、機能を明らかにすることが目的です。

将来の若葉町で行いたいこと、これからも続けていきたいこと、大切にしたいと思う具体的なことを、黄色いふせんに書き出し、機能ごとに分類していきました。そして、班として将来の若葉町で特に優先したい機能を選びました。



～こだわりポイントと工夫できる点を考えよう～

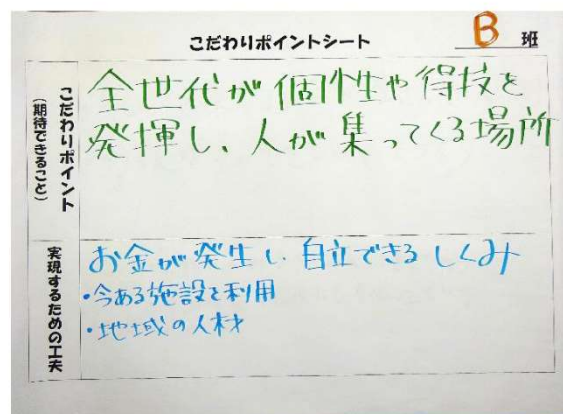
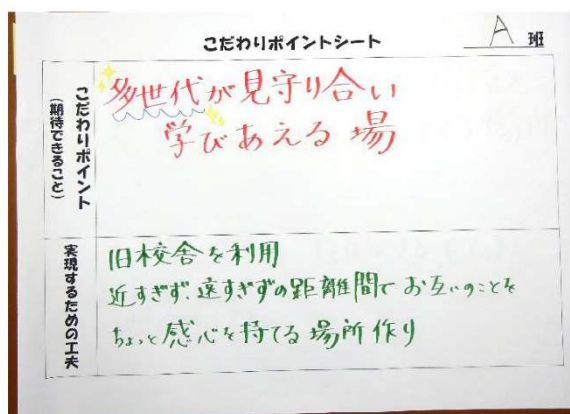
グループワーク

こだわりポイント

⇒ 機能再編にあたって欠かせない視点、譲れない点

第3回ワークショップで考えたキャッチフレーズや基本方針の実現に向け、機能再編にあたっての「こだわりポイント」を考えました。班ごとに選んだ優先したい機能を意識しながらまとめました。

さらに、ちょうどいい距離感の場所づくりやお金が回る仕組みなど、実現可能性を高めるために工夫できる点についても検討しました。



成果発表

班ごとに、こだわりポイントと工夫できる点について、全体に向けて発表しました。

それぞれ、機能再編案を考える際により深く考えていくべき課題などが見えてきたのではないのでしょうか。

今回だけではまとまりきらなかったという班もありました。次回ワークショップは、本日の続きから考えていきたいと思います。



まとめ

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

今回のワークは、次回以降、機能再編案を作成するための下地となる作業でした。

成果を見ると、多くの班がこだわりポイントに「交流」についての視点を取り入れています。機能再編を考える時には、誰と誰が交流するのか、どのような人が主役になるのかを具体的にすることがポイントになります。交流する人の顔を思い浮かべながら話し合ってみてください。

～ちょこっと ひとことコーナー～

ワークショップの最後に、参加者同士の情報共有を目的として、2名の希望者の方にひとことお話をいただきました。子どもたちが放課後に宿題ができる宿題ルームがあったらいいな、というお話や、子ども会が充実して地域が子どもたちに関わっていいな、というお話がありました。

第5回ワークショップの成果物と資料

【成果物】

- ・施設の評価シート
- ・活動・機能シート
- ・こだわりポイントシート

【配布資料】

- ・第5回ワークショップ次第
- ・ニュースレターvol.4
- ・前回の成果(施設現況シート、機能シート全班分)
- ・若葉町の施設について考えよう
- ・若葉町まちづくりに関するアンケート 結果
- ・アンケート

第6回ワークショップ

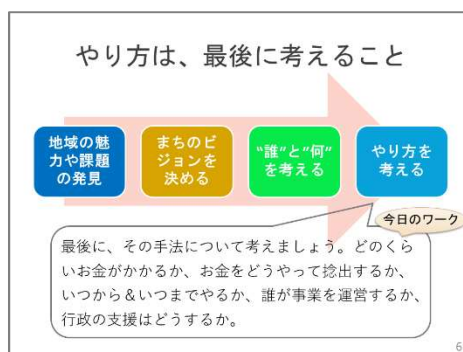
テーマ：まちの機能再編にチャレンジ！ ～将来像から考えよう～

これまでに検討してきたことを踏まえ、班ごとに若葉町の将来計画図を描きました。どこでどのような活動を行うかを考え、具体的な機能再編案を検討しました。

■機能再編の考え方、将来のまちの姿についての説明

市から、機能再編の考え方について説明を行いました。また、令和3年度に実施した「旧若葉小学校・現清掃工場跡地の利活用に関するサウンディング型市場調査」の概要についてお知らせしました。

讃岐先生からは、まちづくりワークショップ全体の流れと本日の位置付けについて、実例を交えての説明がありました。



■ステップ1 これまでのワークをふりかえろう

班ごとに、第1回～5回のワークショップで行ってきたワークの内容や目的、各回の成果物をふりかえり、それぞれの班が描いている将来像や、大切にしたいと思っていることなどを再確認しました。今までのワークは将来計画図を描くための下地や要素となっています。

■ステップ2 若葉町の将来計画図を描こう！

第5回ワークショップで意見を出した、将来の若葉町で行いたいこと、これからも続けていきたいこと、大切にしたいと思うことを、若葉町内のどの場所で行いたいかを考え、その機能や活動メニューのふせんを地図に貼りました。

機能再編を検討する際のポイントは大きく4つです

- 将来に引き継ぐことを考える
⇒余剰空間や過大な費用負担が生じない機能再編
- まち全体のことを考える
⇒地域の資源全体に着目し、「こだわりポイント」を実現する機能再編
- メリット・デメリットを比較する
⇒複数の視点(お金、利便性、広さ)を持ち、それぞれに偏りが無い機能再編
- 時間軸を意識する
⇒施設の耐用年数と現清掃工場跡地の発生するタイミングを考慮した機能再編

今ある建物の耐用年数や、必要な費用などのことも考え、班のみんなで意見を出し合いながら、将来計画図を作りました。

モデルプランその1【参考】

こだわりポイント

- 集会・交流機能と子育て支援機能を集約し、環境、防災に配慮した新たな拠点の形成
- 学校教育機能と学習機能を複合化し、新たな学びの場を創出
- 学校建替え時の生徒、教職員の負担軽減

【メリット】
・仮設校舎の建設が無く、生徒等及び市の負担を抑制
【デメリット】
・拠点が開域の北側に偏る

① 第九中学校の現地で建て替えに合わせ若葉図書館の機能を複合化・清掃工場跡地に若葉会館・グリーンセンター、若葉児童館・若葉学童、東部連絡所の機能を集約し、民間収益施設と複合化・緑の連続性や防災面に配慮した空地を確保
・若葉会館跡地及び若葉児童館・若葉学童跡地は売却し、民間利用

② 旧若葉小学校は第九中学校建替え時の仮設校舎として使用
・建物除却後、サービス付き高齢者向け住宅や公園として再整備

「ちょこっとひとことコーナー」では1名の希望者にお話していただきました。